

自己評価及び外部評価結果

平成25年度

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472000932	事業の開始年月日	平成16年6月1日	
		指定年月日	平成22年6月1日	
法人名	有限会社 ヒューマンライフサービス			
事業所名	グループホーム 悠悠苑平塚事業所			
所在地	(〒254-0012)			
	平塚市大神2108-1			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成25年12月25日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月7日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開所して10年目になります
 ご利用者様が年を重ねる事で、認知症の進行、身体機能の低下が否めない現状を踏まえご家族・ご利用者様に安心して暮らして頂ける様、私達、介護者は統一したケアを行う事が大切と考えます。
 当苑は、昨年度より「チームで取り組む認知症ケア」をトータルテーマに、年4回、講師を招き、研修を行っています。「我が家のような安心感」を持って頂く為に、私達介護者が、今なすべき事を職員一同で学び、チーム力を高める事に努めています。
 明るく家庭的な雰囲気の中で、地域との交流を深め、ご利用者様・ご家族様から学ばせて頂く姿勢を大切に、理念「ゆったりと・心穏やかに・尊厳を大切に・笑顔あふれる日々」の実践に努めます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年1月17日	評価機関 評価決定日	平成26年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】
 この事業所は、JR線平塚駅及び小田急線本厚木駅からバスで20分程の幹線道から少し入った住宅地に立地し、居宅支援事業所を併設している。事業所内はバリアフリーでエレベーターがある。感染症対策に努めており、冬季は加湿器を使用し湿度40%を下回らないようにしている。介護相談員や生活保護費を受給されている方の受け入れ、「ひらつか元気応援ポイント事業」の施設登録をしているなどで市町村と連携している。4名の看取りを経験している。

【理念の実践に向けた職員を育てる取組み】
 理念「ゆったりと・心穏やかに・尊厳を大切に・笑顔あふれる日々」を掲げ、申し送り時の唱和などで理念を共有している。昨年度より2年計画で講師を招き介護技術等の研修を行っている。身近な事例を上げ「待つて」は使わず他の言葉に言い換えてみる、利用者の「いつも」をよく知ったうえで急変時の連絡に活用するなど、研修の振り返りを行い実践に役立てている。訪問日、利用者は、穏やかに過ごされていた。

【事業所と地域とのつきあい】
 大神自治連合会に加入し、盆踊り、どんと焼き、町ぐるみ大掃除などの地域行事に参加している。盆踊りの際は、車椅子利用者も輪の中に入れてもらう、話し相手として頻りに尋ねてくださる方がいるなど、近隣からの理解が得られている。幼稚園との交流や同一法人のデイサービスと合同開催の「悠悠祭り」、民謡や琉球太鼓のボランティアが事業所を訪れるなど、地域の方とおつきあいを充実させている。運営推進会議を通して、災害時の協力依頼や避難訓練で非常食の試食をするなどでも、協力関係を築けるよう努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム悠悠苑平塚事業所
ユニット名	1階

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に、復唱している。また、名札の裏に記載し、いつも確認できるよう配慮している。職場同志でも、常日頃から理念に基づき、笑顔で穏やかに過ごせるよう実践に努めている。	「ゆったりと」など4項目の理念を掲げている。毎日の唱和や廊下に掲示するなど確認し、理念を共有している。管理者は「安心感を持っていただくにはどうするか」を考え実践につなげるよう職員に話している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩時等でお互い挨拶を交わしている。公民館行事・自治会行事・子供まもり隊等、積極的に参加させて頂いている。また、近隣の幼稚園・保育園との交流・看護学生の実習の受け入れをしている。	大神自治連合会に加入し、盆踊り、どんと焼き、町ぐるみ大掃除などの地域行事に参加している。大神美里幼稚園や同一法人のデイサービスと合同開催の「悠悠祭り」などで地域の方と交流している。民謡、琉球太鼓のボランティアや近隣の方が話し相手として事業所を訪れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路に面して入りやすい併設の居宅支援事業所を窓口にして、地域の方が見学・遊びに来られ案内している。一緒にお茶を飲んで頂く等、お話をさせて頂く機会がある。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催、活動報告をしている。構成員と意見交換を行い、災害時の連携・地域との連携等、今後の苑のあり方等を検討、サービス向上に努めている。	運営推進会議のメンバーは、利用者家族、民生児童委員、連合会役員、社会福祉協議会会長、地域包括支援センターの職員である。年6回開催し、外部評価結果報告や地域の災害対策などの意見交換を行っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平塚市介護相談員を月1回受け入れている。社会福祉協議会主催のグループホーム連絡会に参加している。（介護保険課の方同席）	介護保険課の職員が出席するグループホーム連絡会への参加の際に協力関係を築いている。「ひらつか元気応援ポイント事業」の施設登録や生活保護受給資格者の受け入れでも連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行なって、実践している。日中は、玄関を開放し、自由に入出入りしている。緊急時、一時的に施錠を行う事があるが速やかに開放している。	4月に虐待・身体拘束の研修を行い職員に理解を促している。日中玄関は、施錠していない。1人で買物に出かける利用者もあり、ユニットの扉は、メロディーで出入りが分かるようにしている。利用者の外出しそうな様子を察知した時は、職員と一緒に外へ出ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、事前に自己点検シートで確認・予習を行い、研修を行って防止に努めている。 精神的虐待にならない様、ユニット会議・カンファレンス等で話し合い、声掛けに注意を払っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業の制度（2名）、成年後見人制度（1名）活用しているが、すべての職員が理解するには至っていない。今後、研修を行い、個々の必要性を検討して行きたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・本人に説明し、理解・納得を図っている。改定等の際は、十分な説明を行い同意書を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価での家族アンケート結果をユニット会議で話し合った。内容を運営推進会議で公表し、意見交換を行っている。平塚市介護相談員を月1回受け入れ、利用者の意見・要望を引き出して頂いている。	3ヶ月に1度利用者の写真を掲載した「悠悠苑便り」を発行し、家族などに利用者の様子を伝えている。意見箱の設置や苦情相談窓口を玄関などに掲示し、申し出ができる旨を伝えている。悠悠祭りで出された意見を取り入れ「秋祭り」を開催し、家族会での意見を聞き職員の顔写真を掲示するなど、要望に応えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、意向調査を行い、職員の意見や提案を把握している。管理者は、個々面接等を行って意見を聞いている。ユニット会議にて、管理者会議の報告、意見や提案の把握に努めている。	ユニット会議や個人面談などで職員の意見を聞いている。「休憩を取りにくい、場所がない」などの職員の意見を反映させ、休憩時間の15分延長や休憩場所の設置をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、代表者に管理者会議等で職員からの要望・意見等、報告し、給与水準等、労働条件・職場環境等、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。今年度は、年8回講師を招き研修を行った。ユニット会議で研修報告、介護技術等、研修の振り返りを行って実践に役立っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会の定例会・事例発表会。地域介護システム会議主催の研修会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいて、本人の要望に耳を傾け、寄り添い話を聞く場を常に設け、共感し、不安を解消するよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期プランを作成する上で、家族の希望を十分取り入れる事が出来る様、努めている。面会時や電話により、家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等の要望を把握し、カンファレンスを行い、必要としている支援を見極め、ケアプランを立てている。また、1か月で評価を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションを通して関係を深めたり、職員が間に入り、会話・交流が出来る様努めている。出来る事を行う事で、役割を持って生活し、協力し合える関係を築けるよう努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を密にして、本人の希望等、連絡したり、面会に来て頂く、行事に参加して頂く等、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人と電話のやり取り、面会を受ける、地域行事への参加、近隣のスーパーでの買い物等で、馴染みの人と交流出来るよう支援している。 家族へは、悠悠苑だよりの送付等で、現状報告を行っている。	アセスメントや家族の話などから利用者のこれまでの関係の把握に努めている。知人が電話をかけて来たりしてこれまでの馴染みの関係を維持している。美容師が訪問したり利用者が馴染みの美容院へ出かけたりしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に仲介の立場で接している。出来るだけリビングに来て頂き、ゲーム・体操などに参加して頂き、レクリエーションへの参加を通して互いの関係づくりを支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真を贈ったり、管理者が、面会に行ったり電話等で経過を伺うなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望に添える様、好まれる事・趣味等の把握に努めている。また、介護相談員に思い・意向を引出して頂いている。一人ひとりが安らげる居場所が出来る様、努めている。	アセスメントや日々の言葉、家族の話から「花や動物が好き、美術館に行きたい」など、利用者の意向を把握している。意向の把握が困難な利用者は、目の動きも含め、表情から思いを読み取っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・利用者との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、その人らしい過ごし方の把握に努めている。馴染みの家具を配置する・好きな食べ物の把握等行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの対応・会話等、生活の中で、現状の把握に努めている。変化等が見られた場合は、カンファレンス・ユニット会議・申し送り等で情報交換等を行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者を決め、より細かい観察に努めている。アセスメントを行い、本人・家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。	担当者が立案した計画を基に医師など必要な関係者と話し合い、本人や家族からの「自分で出来ることは自分でしたい」「穏やかに暮らせるように」などの要望を把握した上で計画書を策定している。計画書の実施項目番号を記入し計画内容とリンクさせたケア記録を基にモニタリングをしている。計画書は6か月に1度見直している。利用開始後は1か月後に、状態の変化が見られた際は随時見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・生活チェック表、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスとの交流、他ユニットとの交流等、必要に応じて対応し支援の幅を広げている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、保育園・幼稚園との交流、悠悠まつりの開催し地域との交流を図る、近隣への散歩等行っている。また、地域のボランティアによる民謡の会を開催している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	1ヶ月に2回、訪問医療により適切な医療を受けられるよう支援している。状態を医師に報告・状況に応じ家族との連携を取っている。入所前よりのかかりつけ医に受診する場合は、家族が同行し、受診内容は、職員と共有している。	定期的に往診に訪れる内科、歯科、神経内科の他複数の医療機関と提携している。訪問医がかかりつけ医であった方もおり、全員が内科を受診している。眼科など以前からのかかりつけ医への受診は、家族が対応しており、受診後に家族から報告を受け適切に支援できるようにしている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。月2回、看護師の出勤があり、情報を伝えて相談し、指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、サマリーを作成し情報交換を行っている。また、退院指導等に同席させて頂く等、病院側から情報を提供して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についての家族・主治医・管理者で話し合い同意書を頂いている。主治医をリーダーに、家族との連携を密にし、管理者・看護師を中心にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合における対応に関する指針」で事業所の方針を説明し、家族から同意を得ている。看取りの際は延命治療の確認書と共に「グループホームにおけるターミナルケアの指針」を主治医が説明し同意書を得ている。職員はマニュアルで事業所の方針を共有している。4名の看取りを経験している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、研修を行っている。見やすい場所に「緊急手順表」が貼ってあり、マニュアルが整備されている。 個人的に定期的な訓練を行っているが、全ての職員が実践力を身に付けているには、至っていない。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練を年2回、実施し、夜間を想定した訓練を行っている。地域との協力体制を運営推進会議の際、話し合っている。近隣者へ避難訓練の参加を呼び掛けている。災害対策委員会を中心に、定期的にユニット会議等で誘導方法を身に付け、防災意識を高めている。	年2回の避難訓練を行っている。起震車体験や水消火器の扱いを行うなどの消防署立ち会い訓練と夜間を想定した自主訓練を実施している。どんど焼きの際に地元の消防団と交流したが、協力体制の構築には至っていない。運営推進会議で近隣へ避難訓練の参加を呼び掛けている。非常災害時の備蓄は、3日分の水・非常食、毛布などである。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月間目標を立てて、チームで取り組んでいるが、完全ではない。個々が認識する・職員間で注意し合う等、声掛けの工夫が必要と思われる。	4、6月に接遇の研修を行っている。トイレ誘導では、耳元で声掛けを行う、「待って」などの行動を抑えるような言葉は使わず、他の言葉に置き換えるなど、人格を尊重した言葉づかいをするよう努めている。訪問時、職員の声掛けなどにおいて人格を損なうような対応は見うけられなかった。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、本人の意思を引き出せるよう、自己決定できるよう努めているが、全ての職員が出来ているとは言えない、声掛けの工夫が必要と思われる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康管理・安全・安楽の確保に留意し、職員側の都合を優先するのではなく、利用者のペースで生活出来る様、ユニット会議等で確認し合い、支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、本人の希望に沿って、支援している。清潔保持が出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促し等を行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせずに声掛けを工夫し、利用者と職員と一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛けている。	宅配業者の献立と食材を利用し食事を提供している。行事食、おでんパーティー、出前などで食事を楽しめるようにしている。利用者は食事の下ごしらえ、味付け、盛り付けなどを行っている。職員は、見守りをしながら同じものを一緒に食している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方は、好みの飲み物を提供、夜間の水分補給等、一人ひとりの状態を把握、記録し統一した支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、本人の力に応じた対応を行っている歯科医の訪問医療を受け、口腔管理を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、一人ひとりの排泄能力・排泄パターンを把握している。必要に応じ、声掛け・誘導し、トイレで排泄出来る様、支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、排泄の失敗に対応している。リハビリパンツから布パンツとパッドへの変更を試みるなど、排泄の介助によりトイレで排泄ができるように支援している。夜間ポータブルトイレを使用している方もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳・乳製品を取り入れている。個々の状況に応じて、オリゴ糖を使用する・水分を多めに促す、運動・散歩の働きかけを行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・入浴時間を決めず、出来るだけ、希望に応じて入浴が出来る様、配慮している。拒否のある方には無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせて支援している。	毎日お風呂を沸かし、概ね2～3日に1度のペースで入浴している。午前中の入浴希望に対応している。入浴を好まない利用者には、職員を替えて入浴を促すなどを行っている。仲の良い利用者同士で入るなどで入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思に任せている。意思を 表せない利用者には、様子観察を して、安心して眠れる様、必要に 応じた対応をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカードックスにファ イルし、一人一人の薬の目的や副 作用を理解するよう努めている。 薬剤師に随時相談・指導を受けら れるようになっている。服薬チェ ック表を付け、薬の確認・服薬の 確認を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加等、一人一人の力を 活かした役割を持っている。行 事・レクリエーション・散歩・買 い物等で気分転換を図っている。 また、リハビリ体操等、皆で一緒 に行っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・レクリエーション 等で外へ出掛けられるよう支援に 努めている。地域行事への参加 等、家族会・運営推進会議・おた より等で協力を要請している。	個々のリズムや要望に合わせて散歩に出かけている。「年間計画」を作成して花見や初詣などに出かけている。近隣のスーパーでの買物や車椅子でも同様に散歩や地域の催しなどに出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が必要とする物を聞き入れ一 緒に買い物に行っている。お金 は、職員が管理しているが、力に 応じて小遣いを自己管理している 方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人・友人・家族と電話をやり取りしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。温度・湿度は朝・夕、確認している。リビングのテーブルの位置等、状況に応じて工夫をしている。利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がない様、配慮しているが十分ではない。	玄関などに花を飾り季節感を出している。光はカーテンで調節している。冬季は、加湿器を使用するなど湿度を40%以上に保ち感染症対策をしている。特に気になる音や温度差は、感じられなかった。換気や芳香剤の使用で匂いの配慮をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる場所等、ソファ・椅子・テーブル等で工夫している。外ベンチ等も活用している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、本人の好みの家具・品物を家族と相談しながら配置している。	居室内にある事業所の備品は、エアコン、照明器具、クローゼットである。部屋ごとにタンス、テレビ、ぬいぐるみ、花、写真などが持ち込まれ、利用者が居心地良く過ごせるようにしている。床に畳を敷き布団で休むなど、我が家にいるように工夫して過ごしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に応じた寝具（ベット・布団）、家具等の設置を行っている。		

事業所名	グループホーム苑平塚事業所
ユニット名	2階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に、復唱している。また、名札の裏に記載し、いつも確認できるよう配慮している。職場同志でも、常日頃から理念に基づき、笑顔で穏やかに過ごせるよう実践に努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩時等でお互い挨拶を交わしている。公民館行事・自治会行事・子供みまもり隊等、積極的に参加させて頂いている。また、近隣の幼稚園・保育園との交流・看護学生の実習の受け入れをしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路に面して入りやすい併設の居宅支援事業所を窓口にして、地域の方が見学・遊びに来られ案内している。一緒にお茶を飲んで頂く等、お話をして頂く機会がある。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催、活動報告をしている。構成員と意見交換を行い、災害時の連携・地域との連携等、今後の苑のあり方等を検討、サービス向上に努めている。		

5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平塚市介護相談員を月1回受け入れている。社会福祉協議会主催のグループホーム連絡会に参加している。（介護保険課の方同席）		
---	---	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行なって、実践している。日中は、玄関を開放し、自由に出入りしている。緊急時、一時的に施錠を行う事があるが速やかに開放している。今後も定期的に研修を行い正しく理解する必要がある。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について、事前に自己点検シートで確認・予習を行い、研修を行って防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業の制度（2名）、成年後見人制度（1名）活用しているが、すべての職員が理解するには至っていない。今後、研修を行い、個々の必要性を検討して行きたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・本人に説明し、理解・納得を図っている。改定等の際は、十分な説明を行い同意書を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価での家族アンケート結果をユニット会議で話し合った。内容を運営推進会議で公表し、意見交換を行っている。平塚市介護相談員を月1回受け入れ、利用者の意見・要望を引き出して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、意向調査を行い、職員の意見や提案を把握している。管理者は、個々面接等を行って意見を聞いている。ユニット会議にて、管理者会議の報告、意見や提案の把握に努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、代表者に管理者会議等で職員からの要望・意見等、報告し、給与水準等、労働条件・職場環境等、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。今年度は、年8回講師を招き研修を行った。ユニット会議で研修報告、介護技術等、研修の振り返りを行って実践に役立てている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会の定例会・事例発表会。地域介護システム会議主催の研修会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>アセスメントにおいて、本人の要望に耳を傾け、寄り添い話を聞く場を常に設け、共感し、不安を解消するよう努力している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初期プランを作成する上で、家族の希望を十分取り入れる事が出来る様、努めている。面会時や電話により、家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族等の要望を把握し、カンファレンスを行い、必要としている支援を見極め、ケアプランを立てている。また、1か月で評価を行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>レクリエーションを通して関係を深めたり、職員が間に入り、会話・交流が出来る様努めている。出来る事を行う事で、役割を持って生活し、協力し合える関係を築けるよう努めている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との関係を密にして、本人の希望等、連絡したり、面会に来て頂く、行事に参加して頂く等、共に支えていく関係を築けるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>今まで掛かっていた美容院に行き、調髪等を行っている。地域行事への参加、近隣のスーパーでの買い物等で、馴染みの人と交流出来るよう支援している。家族へは、悠悠苑だよりの送付等で、現状報告を行っている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員は常に仲介の立場で接している。出来るだけリビングに来て頂き、ゲーム・体操などに参加して頂き、レクリエーションへの参加を通して互いの関係づくりを支援している。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>写真を贈ったり、管理者が、面会に行ったり電話等で経過を伺うなどしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望に添える様、好まれる事・趣味等の把握に努めている。また、介護相談員に思い・意向を引出して頂いている。一人ひとりが安らげる居場所が出来る様、努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・利用者との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、その人らしい過ごし方の把握に努めている。馴染みの家具を配置する・好きな食べ物の把握等行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの対応・会話等、生活の中で、現状の把握に努めている。変化等が見られた場合は、カンファレンス・ユニット会議・申し送り等で情報交換等を行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者を決め、より細かい観察に努めている。アセスメントを行い、本人・家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・生活チェック表、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスとの交流、他ユニットとの交流等、必要に応じて対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、保育園・幼稚園との交流、悠悠まつりの開催し地域との交流を図る、近隣への散歩等行っている。また、地域のボランティアによる民謡の会を開催している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2回、訪問医療により適切な医療を受けられるよう支援している。状態を医師に報告・状況に応じ家族との連携を取っている。入所前よりかかりつけ医に受診する場合は、家族が同行し、受診内容は、職員と共有している。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。月2回、看護師の出勤があり、情報を伝えて相談し、指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、サマリーを作成し情報交換を行っている。また、退院指導等に同席させて頂く等、病院側から情報を提供して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方についての家族・主治医・管理者で話し合い同意書を頂いている。主治医をリーダーに、家族との連携を密にし、管理者・看護師を中心にチームで支援に取り組んでいる。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応について、研修を行っている。見やすい場所に「緊急手順表」が貼ってあり、マニュアルが整備されている。個人的に定期的な訓練を行っているが、全ての職員が実践力を身に付けているには、至っていない。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>苑内での避難訓練を年2回、実施し、夜間を想定した訓練を行っている。地域との協力体制を運営推進会議の際、話し合っている。近隣者へ避難訓練の参加を呼び掛けている。災害対策委員会を中心に、定期的にユニット会議等で、誘導方法を身に付け、防災意識を高めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月間目標を立てて、チームで取り組んでいるが、完全ではない。個々が認識する・職員間で注意し合う等、声掛けの工夫が必要と思われる。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、本人の意思を引き出せるよう、自己決定できるよう努めているが、全ての職員が出来ているとは言えない、声掛けの工夫が必要と思われる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康管理・安全・安楽の確保に留意し、職員側の都合を優先するのではなく、利用者のペースで生活出来る様、ユニット会議等で確認し合い、支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、本人の希望に沿って、支援している。清潔保持が出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促し等を行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせずに声掛けを工夫し、利用者と職員と一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方は、好みの飲み物を提供、夜間の水分補給等、一人ひとりの状態を把握、記録し統一した支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、本人の力に応じた対応を行っている 歯科医の訪問医療を受け、口腔管理を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、一人ひとりの排泄能力・排泄パターンを把握している。必要に応じ、声掛け・誘導し、トイレで排泄出来る様、支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳・乳製品を取り入れている。個々の状況に応じて、オリゴ糖を使用する・水分を多めに促す、運動・散歩の働きかけを行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・入浴時間を決めず、出来るだけ、希望に応じて入浴が出来る様、配慮している。拒否のある方には無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思に任せている。意思を表せない利用者には、様子観察をして、安心して眠れる様、必要に応じた対応をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカーデックスにファイルし、一人一人の薬の目的や副作用を理解するよう努めている。薬剤師に随時相談・指導を受けられるようになっている。服薬チェック表を付け、薬の確認・服薬の確認を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加等、一人一人の力を活かした役割を持っている。行事・レクリエーション・散歩・買い物等で気分転換を図っている。また、リハビリ体操等、皆で一緒に行っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・レクリエーション等で外へ出掛けられるよう支援に努めている。地域行事への参加等、家族会・運営推進会議・おたより等で協力を要請している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が必要とする物を聞き入れ一緒に買い物に行っている。お金は、職員が管理しているが、力に応じて小遣いを自己管理している方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。温度・湿度は朝・夕、確認している。 リビングのテーブルの位置等、状況に応じて工夫をしている。利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がない様、配慮しているが十分ではない。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる場所等、ソファ・椅子・テーブル等で工夫している。外ベンチ等も活用している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、本人の好みの家具・品物を家族と相談しながら配置している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に応じた寝具（ベット・布団）、家具等の設置を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 悠悠苑
平塚事業所

作成日 平成26年 5月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回、避難訓練を行っているが、職員全員が昼夜問わず利用者の避難方法を身に付けるに至っていない。	職員全員が昼夜問わず利用者の避難方法を身に付ける事が出来る。	災害対策委員を中心に誘導方法を検討し、年2回の誘導訓練・毎月のユニット会議時等、定期的に訓練を行い、防災意識を高める。	1年間
2	35	地域住民の避難訓練への参加を呼び掛けているが、参加に至っていない。	災害時、地域との協力体制を築く事が出来る。	地域との交流を深める事が出来るよう、地域行事への参加・苑行事参加の呼びかけを行う。運営推進会にて地域住民・近隣者への避難訓練参加の呼びかけを継続的に行う。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。